

“たつまき”の写真



写真 1



写真 2

1963年9月27日09時40分ごろから10時45分にかけて、鹿児島県沖永良部島の南から南東の海上(3~5 km)において、雄大積雲の下に大小9本のたつまきが発生した。

写真(1~4)はその最初のもので、発生時から消滅までの状況を示す。このたつまきは9本のうち最も顕著であった。

写真説明

(1) 09時42分

発見が少しおくれたが、先端部の矢印の状態が興味深い。海面上では、海水が約30mぐらい吸い上げられていた。

(2) 09時43分

最盛期であって、海水が(1)以上に吸い上げられている状況がはっきり見え、この状態が7分つづいた。

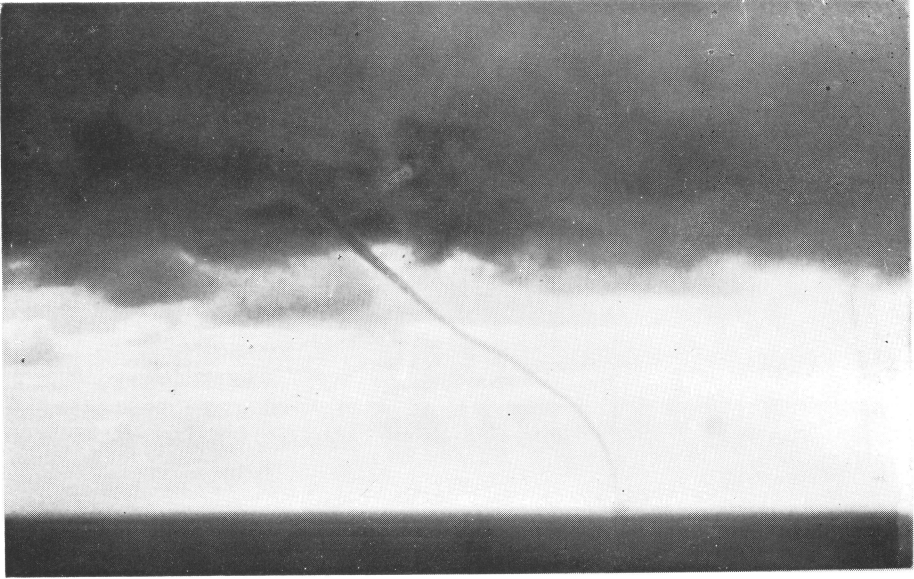


写真 3

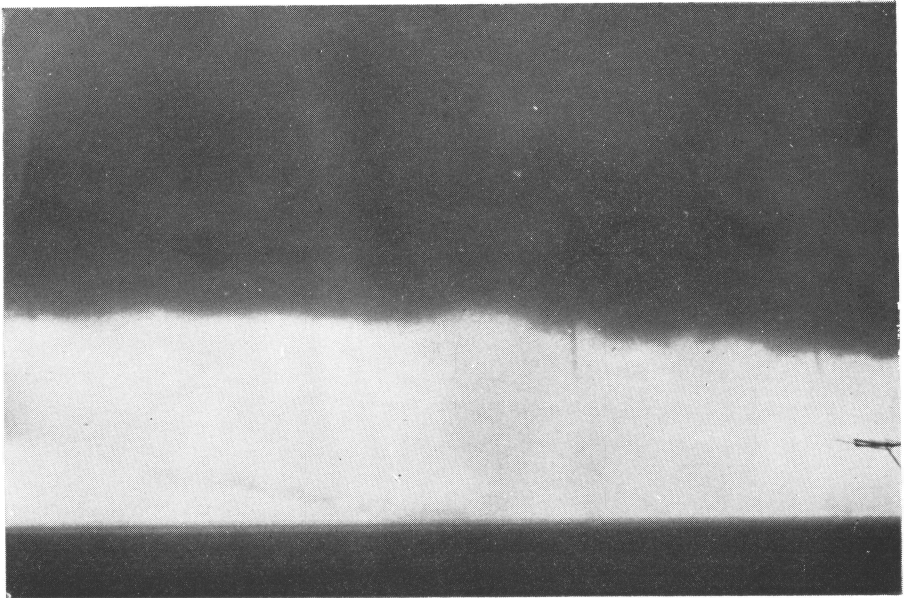


写真 4

(3) 09時50分

衰弱期にはいった状態で、雄大積雲の移動（南西（右方）から北東（左方））とともに、多様な変化をしながら衰弱しつつあった。

(4) 09時55分

消滅直前の状況で、南西の方にも同様のものが見られる。

気象状況

当日 6 時の天気図では、本島と名瀬との間に南西に延びる寒冷前線があった。当日は風は弱かったが、たつまき発生時は弱い雷鳴があり、海上では、強いしゅう雨があったが陸上では弱かった。

(沖永良部側候所 木ノ脇秀哉)